

理科の要点シリーズ・大地の変化(2) [問題]

氏名()

- (1) 今も活動を続けていたり、今から1万年以内にふん火したことがわかっている火山を()といい、日本に()あり、地球上には約()ある。半数以上は()に属する。
- (2) 深くて細長い海底を()といい、()の運動によってできる。それと平行に()がある。
- (3) 地球の表面は()というかたい岩の層。その下に()がある。さらに真ん中には()がある。
- (4) マグマは、温度が()なほど、ねばりけが弱い。また、()が()いほど、ねばりけが弱い。
- (5) マグマが地表に出たものを()という。
- (6) 火山ガス・火山灰などが山の斜面を流れ下る現象を()という。
- (7) 火山の中央部が大きく落ちこんでできたものを()という。
- (8) 火成岩の中で、地表近くで急に冷えてできた岩石を()岩という。()岩・()岩・()岩など。大きいつぶは()い。
- (9) 火成岩の中で、地下深いところでゆっくり冷えてできた岩石を()岩という。ア()岩・()岩・()岩など。大きいつぶは()い。
- (10) (9)のアは、()・()・()などの()でできている。
- (11) 地震が発生した場所が()、その真上の地表の場所が()。
- (12) 地震の波には、速く伝わる()波(秒速()km)と、おそく伝わる()波(秒速()km)がある。
- (13) 地震のゆれのうち、はじめの小さなゆれを()といい、あとの大きなゆれを()という。
- (14) 地震そのものの大きさを表す単位が()。1階級大きくなるごとに、地震の大きさは()倍になる。
- (15) 岩石が空気や水などによってしん食されることを()という。
- (16) ()岩でできている土地では、()地形が見られ、地下では()が見られる。
- (17) おもに海水のしん食作用によってできる地形
…()・()・()
- (18) おもに海水のたい積作用によってできる地形
…()・()・()

理科の要点シリーズ・大地の変化(2) [解答]

- (1) 今も活動を続けていたり、今から1万年以内にふん火したことがわかっている火山を(活火山)といい、日本に(111)あり、地球上には約(800)ある。半数以上は(環太平洋火山帯)に属する。
- (2) 深くて細長い海底を(海溝)といい、(プレート)の運動によってできる。それと平行に(火山前線)がある。
- (3) 地球の表面は(地かく)というかたい岩の層。その下に(マントル)がある。さらに真ん中には(核)がある。
- (4) マグマは、温度が(高温)なほど、ねばりけが弱い。また、(二酸化ケイ素)が(少な)いほど、ねばりけが弱い。
- (5) マグマが地表に出たものを(よう岩)という。
- (6) 火山ガス・火山灰などが山の斜面を流れ下る現象を(火さい流)という。
- (7) 火山の中央部が大きく落ちこんでできたものを(カルデラ)という。
- (8) 火成岩の中で、地表近くで急に冷えてできた岩石を(火山)岩という。(りゅうもん)岩・(あんざん)岩・(げんぶ)岩など。大きいつぶは(少な)い。
- (9) 火成岩の中で、地下深いところでゆっくり冷えてできた岩石を(深成)岩という。ア(かこう)岩・(せんりょく)岩・(はんれい)岩など。大きいつぶは(多)い。
- (10) (9)のアは、(セキエイ)・(チョウ石)・(黒うんも)などの(鉱物)でできている。
- (11) 地震が発生した場所が(震源)、その真上の地表の場所が(震央)。
- (12) 地震の波には、速く伝わる(P)波(秒速(8)km)と、おそく伝わる(S)波(秒速(4)km)がある。
- (13) 地震のゆれのうち、はじめの小さなゆれを(初期微動)といい、あとの大きなゆれを(主要動)という。
- (14) 地震そのものの大きさを表す単位が(マグニチュード)。1階級大きくなるごとに、地震の大きさは(32)倍になる。
- (15) 岩石が空気や水などによってしん食されることを(風化)という。
- (16) (せっかい)岩でできている土地では、(カルスト)地形が見られ、地下では(しょうにゅうどう)が見られる。
- (17) おもに海水のしん食作用によってできる地形
…(海食がい)・(海食台)・(海食どう)
- (18) おもに海水のたい積作用によってできる地形
…(砂し)・(砂す)・(陸けい島)